

山内進名誉教授 主要研究業績一覧

- 1974年 3月 〔修士論文〕 オットー・ヒンツェにおける「近世国制史」の形成過程
- 1975年 6月 〔研究報告〕 オットー・ヒンツェの近世国制史研究について（法制史学会東京部会）
- 1976年 6月 〔論文〕 近代国家創設の理念的推進力に関する一視角——J. リプシウスの歴史的意義『一橋研究』1巻1号
- 1977年 3月 〔博士単位修得論文〕 ユストゥス・リプシウスの「秩序」理念——「ネーデルラント運動」の起点としての新ストア主義
- 5月 〔事典項目〕 「統治契約」「代表の観念」「身分制議会の成立・発展」：有賀弘他編『政治思想史の基礎知識』有斐閣
- 10月 〔研究報告〕 近代自然法の所謂『世俗性』とリプシウスの『恒心論』（法制史学会研究大会）
- 12月 〔論文〕 オットー・ヒンツェの「歴史主義」論『一橋論叢（特集法と国制）』78巻6号
- 1978年 3月 〔論文〕 近代自然法のいわゆる「世俗性」とリプシウスの「恒心論」（1）『成城法学（成城学園60周年記念法学部創設記念）』1号
- 7月 〔論文〕 近代自然法のいわゆる「世俗性」とリプシウスの「恒心論」（2・完）『成城法学』2号
- 1979年 9月 〔論文〕 ヒンツェの国制史における人間精神の意義（1）『成城法学』5号
- 1980年 2月 〔論文〕 ヒンツェの国制史における人間精神の意義（2）『成城法学』6号
- 6月 〔論文〕 ヒンツェの国制史における人間精神の意義（3・完）『成城法学』7号
- 1981年 11月 〔研究報告〕 リプシウスの「政治—国家学」第5巻に見られる軍事理論、特に「紀律」の概念について（法制史学会東京部会）

- 12月 [研究ノート] 新ストア主義研究の新段階——ギュンター・アーベル著『ストア主義と初期近代——倫理学と政治学の領域における近代思想の発展史』、とくにその「紀律化」の分析に関して『成城法学』10号
- 1982年 3月 [論文] パンデクテンの現代的慣用 (Usus modernus pandectarum) とネーデルラント後期人文主義の創始者ユストゥス・リプシウス (1) 『成城法学 (法学部創設5周年記念特別号)』11号
- 10月 [論文] パンデクテンの現代的慣用 (Usus modernus pandectarum) とネーデルラント後期人文主義の創始者ユストゥス・リプシウス (2・完) 『成城法学』12号
- 1983年 3月 [論文] ゲルハルト・エストライヒの「全体史」について——ゲルハルト・エストライヒ著『初期近代の構造をめぐる諸問題』および同著『新ストア主義と初期近代』の発刊に寄せて『成城法学 (三藤正先生喜寿祝賀特別号)』13号
- 1985年 4月 [研究報告] リプシウスの『政治学』Politiorum seu civilis doctrinae libri sex における国家理性の思想 (法制史学会総会)
- 6月 [著書] 『新ストア主義の国家哲学——ユストゥス・リプシウスと初期近代ヨーロッパ』千倉書房
- 1986年 9月 [翻訳] クラウス・ルーイク「フリードリヒ大王治下 (1740-1786) のプロイセン私法改革」『一橋論叢 (法学部号)』96巻3号
- 12月 [論説] カルネアデスの板『成城教育』54号
- 1987年 3月 [博士学位論文] 新ストア主義の国家哲学——ユストゥス・リプシウスと初期近代ヨーロッパ
- [論文] 初期近代ヨーロッパにおける掠奪とその法理 (1) 『成城法学 (矢田俊隆先生古稀祝賀記念号)』24号
- 1988年 6月 [論文] 初期近代ヨーロッパにおける掠奪とその法理 (2) 『成城法学』28号
- 1989年 4月 [研究報告] グロティウスの捕獲権論 (法制史学会総会)
- 9月 [論文] 初期近代ヨーロッパにおける掠奪とその法理 (3) 『成城

- 法学』33号
- 1990年12月〔論文〕初期近代ヨーロッパにおける掠奪とその法理(4・完)
『成城法学』36号
- 1991年1月〔セミナー〕中世ヨーロッパの決闘裁判——当事者主義の原風景
『一橋論叢(法学部号)』105巻1号
- 11月〔論説〕グロティウスの「伝統」と新しい国際社会『創文』327号
- 1992年3月〔書評〕塚田富治『カメレオン精神の誕生——徳の政治からマキアヴェリズムへ——』(平凡社、1991年)、『Historia Juris 比較法史研究1(比較法史研究の課題)』未来社
- 1993年3月〔著書〕『掠奪の法観念史——中・近世ヨーロッパの人・戦争・法』東京大学出版会
- 〔論文〕ジャン・バルベイラク(1674-1744)『一橋大学社会科学古典資料センター年報』13号
- 〔書評〕若曾根健治「中世の慣習概念をめぐる諸問題」(熊本法学75号)、『法制史研究』43号
- 6月〔論説〕新グロティウス主義の時代『UP』248号
- 10月〔共編訳〕ゲルハルト・エストライヒ『近代国家の覚醒——新ストア主義・身分制・ポリツァイ』創文社
- 〔研究ノート〕ヨーロッパ・地中海国際共同体『一橋論叢(特集地中海世界とその周辺——国家・民族・地域)』110巻4号
- 11月〔共著〕大谷良雄編『共通利益概念と国際法』(第1章「グロティウスのアンビヴァレンス——国家主権と人類の共通利益」)国際書院
- 1994年2月〔論文〕The Ambivalence of Hugo Grotius: State Sovereignty and Common Interests of Mankind, *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Vol. 22
- 〔事典項目〕「掠奪」: 川北稔責任編集『歴史学事典1 交換と消費』弘文堂
- 3月〔学会動向〕「ヨーロッパ」の侵略と拡大を正当化した法観念を解

明する一基礎資料の公刊——セプールベダ（染田秀藤訳）『征服戦争は是か否か』（岩波書店）の翻訳とその意義『Historia Juris 比較法史研究3（文明のなかの規範）』未来社

1995年 2月 〔論文〕Looting of Men and Legal Theories in Medieval and Early Modern Europe, *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Vol. 23

3月 〔論文〕黎明期の国際人権思想——コンスタンツの論争とパウルス・ウラディミリの『結論52』（1416年）『成城法学（矢崎光圀先生古稀祝賀記念号）』48号

〔書評〕千葉徳夫「ドイツ近世国制史に関する最新研究——H. ドライツェルの二つの著作に接して」（『法律論叢』66巻1-2号）、『法制史研究』44号

6月 〔共訳〕エーベルハルト・シュミット『ドイツ刑事司法史』「第三部 近代的刑事政策の発展 第一編 啓蒙主義」（1）『ユリスプルデンティア 国際比較法制研究』4号

8月 〔論文〕初期近代ヨーロッパの知的潮流とプロイセン絶対主義『ドイツ文化社会史研究』3号

9月 〔共著〕『一橋大学百二十年史——Captain of Industry をこえて』一橋大学

1996年 1月 〔論文〕明治国家における「文明」と国際法『一橋論叢（法学部号）』115巻1号*勝田有恒名誉教授・上原行雄名誉教授退官記念

2月 〔論文〕Civilization and International Law in Japan During the Meiji Era (1868-1912), *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Vol. 24

3月 〔書評〕黒田忠史『西欧近世法の基礎構造』（晃洋書房、1995年）、『法制史研究』46号

8月 〔論説〕「文明」と「野蛮」の国際関係思想——アリストテレスとアレクサンドロス大王『あうろーら』4号

10月 〔論文〕「私の羊たちを飼いなさい（Pasce oves meas）」——イン

- ノケンティウス四世と異教世界『一橋論叢（特集 地中海世界における少数集団）』116巻4号
- 1997年 3月 [論文] 近世における社会的紀律化とポリツァイ『法史学研究会会報（故千葉徳夫教授追悼特集号）』2号
- 9月 [著書]『北の十字軍——「ヨーロッパ」の北方拡大』講談社
[論文] 入るように強制せよ（compelle intrare）——伝道の思想と異教的フロンティア『Historia Juris 比較法史研究6（救済の秩序と法）』未来社
- 10月 [論説] ガラスの壁『本』22巻10号
- 12月 [共著]『岩波講座 世界歴史25 戦争と平和——未来へのメッセージ』（第6章「神の平和と神の戦争」）岩波書店
- 1998年 11月 [論文] 同意は法律に、和解は判決に勝る——中世ヨーロッパにおける紛争と訴訟『歴史学研究（特集 訴訟の比較文化史）』717号
- 1999年 2月 [論文] 転機——富の源泉はいつ掠奪から生産へと移行したか？『大航海（特集 反経済学）』26号
- 7月 [論文] フロンティアとグローバリズム——正戦論の転回『大航海（特集 宗教戦争としての現代）』29号
[書評] クヌート・W・ネル著／村上淳一訳『ヨーロッパ法史入門——権利保護の歴史』（東京大学出版会、1999年）、『史学雑誌』108巻7号
[講演] 欧州における法思想の発展と現代のEU法（一橋フォーラム21）
- 10月 [論文] グロティウスの伝統——国際法思想史と国際社会『一橋論叢（特集 ヨーロッパ社会史の世界）』122巻4号
- 12月 [論説] キリスト教と神判『創文』416号
- 2000年 [共編著] *Hitotsubashi University, 1875-2000: A Hundred and Twenty-five Years of Higher Education in Japan*, Palgrave Macmillan

- 1月 〔共著〕歴史学研究会編『シリーズ歴史学の現在2 紛争と訴訟の文化史』（「同意は法律に、和解は判決に勝る——中世ヨーロッパにおける紛争と訴訟」）青木書店
- 8月 〔著書〕『決闘裁判——ヨーロッパ法精神の原風景』講談社現代新書
- 9月 〔編著〕『混沌のなかの所有』国際書院
〔論文〕暴力と身体と教育——近代教育を考える前提として『大航海（特集 超・教育——崩壊から創造へ）』36号
- 12月 〔論文〕戦争と平和——殺害、掠奪、放火『大航海（特集 現代暴力論）』37号
- 2001年 4月 〔研究報告〕グロティウスと20世紀における国際法思想の変容（法制史学会総会）
- 8月 〔共著〕木村靖二編『新版世界各国史13 ドイツ史』（第1章「フランク帝国の遺産」、第2章「苦闘する神聖ローマ帝国」）山川出版社
〔講演記録〕神判と決闘裁判——欧米の法文化を探る『如水会会報』856号
- 11月 〔論文〕グロティウスと20世紀における国際法思想の変容『変動期における法と国際関係——一橋大学法学部創立50周年記念論文集』有斐閣
- 12月 〔対談〕「カリスマと原理主義 山内進×三浦雅士」『大航海（特集 カリスマ）』41号
- 2002年 10月 〔論文〕聖地の浄化——十字軍の「神話」『大航海（特集 パレスチナ——愛と憎しみの起源）』44号
- 12月 〔論文〕北の十字軍とはなにか [十字軍のメタモルフォーゼ] 『別冊 環⑤ヨーロッパとは何か』藤原書店
- 2003年 3月 〔講演記録〕合意は法律に、和解は判決に勝る（Pactum legem uincit et amor iudicium）——中世ヨーロッパの人と法『司法研修所論集』109号

- 〔解説〕 十字軍思想とアメリカ (森孝一 『『ジョージ・ブッシュ』
のアタマの中身 — アメリカ「超保守派」の世界観』 講談社文
庫)
- 4月 〔座談会〕 『『市場の法文化』をめぐって』 『法文化学会報』 4-1号
別冊
- 5月 〔研究報告〕 デュー・プロセスとユス・コムーネ — 悪魔ですら
「法廷の一日」をもつべし (日本法社会学会学術大会)
- 7月 〔著書〕 『十字軍の思想』 ちくま新書
〔研究報告〕 帝国の移転 (translatio imperii) — ヨーロッパとア
メリカ (日本大学基礎法学研究会)
- 9月 〔論文〕 擬制人格 (ペルソナ・フィクタ) とグローバリゼーショ
ン 『大航海 (特集 会社とは何か?)』 48号
- 2004年 1月 〔共著〕 『文明の道④イスラムと十字軍』 NHK 出版
- 3月 〔書評〕 永井一郎著 『『契約は法を打ち破る』 — 12、13世紀ウェ
ールズと8世紀アイルランドにおける法認識』 (『国学院経済学』
50巻2、3・4号)、 『法制史研究』 53号
- 6月 〔その他〕 献辞 『一橋法学 (石原全教授退官記念号)』 3巻2号
- 8月 〔論文〕 帝国の移転 — 近代国家システムと「神の国」アメリカ
『現代思想 (特集 いまなぜ国家か)』 32巻9号
- 9月 〔書評〕 太田義器 『グロティウスの国際政治思想 — 主権国家秩
序の形成』 (ミネルヴァ書房、2003年)、 『社会思想史研究』 28号
- 10月 〔共編著〕 『概説西洋法制史』 ミネルヴァ書房
〔論文〕 福田徳三の国際政治思想 『一橋論叢 (特集 福田徳三とそ
の時代)』 132巻4号
〔対談〕 「“正しい戦争” とジハードの論理 山内進×池内恵」 『ア
リエス』 1号
- 12月 〔論文〕 法と身体のパフォーマンス 『大航海 (特集 身体論の地
平)』 53号
- 2005年 1月 〔共編著〕 『暴力 — 比較文明的考察』 東京大学出版会

- 3月 [書評] 熊野聡『ヴァイキングの経済学——掠奪・贈与・交易』
(山川出版社、2003年)、『法制史研究』54号
[論説] 文明の敵——17世紀人文主義者と「正しい戦争」『アリエス』2号
- 5月 [講演] 統合ヨーロッパへの道——ヨーロッパ意識の形成 (EUIJ
×KF「まちかど教室」特別講座)
[解説] 十字軍とエルサレム王国『キングダム・オブ・ヘブン』
(映画パンフレット)
- 10月 [論説] 市民法の歩みから市民社会を考える『学際 (特集 市民社会
を考える)』16号
[研究報告] 中・近世ヨーロッパにおける聖戦と正戦 (日本政治
学会研究大会)
- 11月 [講演] ヨーロッパ意識の形成——EUへの道 (一橋大学移動講
座)
- 12月 [事典項目] 「イタリア戦争」「カトー・カンブレジ和約」: 猪口孝
他編『国際政治事典』弘文堂
- 2006年 2月 [論文] “An Agreement Supersedes the Law, and Amicable Set-
tlement a Court Judgement”: Disputes and Litigation in Medieval
Europe, *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Vol. 34
- 3月 [共編著] *Conflict and Settlement in Europe*, Centre for New
European Research, Hitotsubashi University
[研究報告] 「近代日本における国際法の受容と20世紀における
国際法思想の変容」(中国社会科学院法学研究所アジアセンタ
ー・一橋大学北京事務所主催シンポジウム「東アジアにおけるヨ
ーロッパ法の受容と変容」)
[その他] 献辞『一橋法学 (西村幸次郎教授退職記念号)』5巻1
号
- 4月 [編著] 『「正しい戦争」という思想』勁草書房
- 9月 [研究報告] 正義の戦争と現代 (青山学院大学国際政治経済研究

- 開発センター「シンポジウム 国際社会における正義——懷疑論の克服と21世紀の展望」
- 11月 〔研究報告〕ヨーロッパの拡大と正戦論——グロティウスの私戦論（法政大学大学院附属ヨーロッパ研究所研究会）
- 2007年 1月 〔論文〕20世紀の新政戦論——グロティウスの再生とアメリカ『思想』993号
- 3月 〔共編著〕『衝突と和解のヨーロッパ——ユーロ・グローバリズムの挑戦』ミネルヴァ書房
〔論文〕グロティウスにおける自己保存の思想——カルネアデスとキケロー『大航海（特集 中世哲学復興）』62号
- 9月 〔解説〕「ヨーロッパ中世世界」との出会い——小樽での会話から（阿部謹也『自分のなかに歴史を読む』ちくま文庫）
- 2008年 2月 〔共編著〕『近世・近代ヨーロッパの法学者たち——グラーツィアヌスからカール・シュミットまで』ミネルヴァ書房
〔論文〕New Just War Theory of the 20th Century: The Rebirth of Grotius and the United States, *Hitotsubashi Journal of Law and Politics*, Vol. 36
- 4月 〔編著〕『フロンティアのヨーロッパ』国際書院
- 5月 〔論説〕新ストア主義の倫理とヨーロッパ主権国家秩序——情念と暴力の規律化『メルク（特集 ヨーロッパ、没落と創造の大陸）』3号
- 6月 〔研究報告〕Particularism and Universalism of Just War Theory in Europe（一橋大学21世紀COEプログラム「ヨーロッパの革新的研究——衝突と和解」・スウェーデン・マルメ大学共催シンポジウム「Europe and Conflict」）
- 8月 〔共著〕李林編『跨越国境的法律认识』（『近代日本対国際法的接受と20世紀国際法思想的变化』）社会科学文献出版社
- 2009年 1月 〔論文〕グロティウスははたして近代的か『法学研究（森征一教授退職記念号）』82巻1号

(214) 一橋法学 第15巻 第1号 2016年3月

- 2010年 2月 〔共著〕『紛争解決の国際政治学——ユーロ・グローバリズムからの示唆』（第3章 20世紀の新政戦論——グロティウスの再生とアメリカ——）
- 12月 〔論説〕遅まきの出会い『創文』537号
- 2011年 1月 〔著書〕『北の十字軍——「ヨーロッパ」の北方拡大』講談社学術文庫
- 4月 〔講演記録〕時は逃げ去る。しかし大学は永遠である。『これから生きる君たちへ』新潮社
- 2012年 8月 〔論説〕招待席 本との出会い——偶然と必然『臨床精神病理』33巻2号
- 9月 〔講演記録〕中世ヨーロッパの裁判と現代司法『山形大学法政論叢』54・55号
- 10月 〔著書〕『文明は暴力を超えられるか』筑摩書房
〔講演〕On the Human Habitat (Science and Technology in Society Forum)
- 2013年 4月 〔講演〕出会うこと——偶然と必然（小樽商科大学新入生歓迎講演会）
- 9月 〔共著〕羽場久美子編『EU（欧州連合）を知るための63章』（第3章「中近世ヨーロッパの東方拡大——征服・同化と分権・自由」）明石書店
〔講演〕自由学芸について（一橋フォーラム21）
- 10月 〔講演記録〕経済の精神『昭和経済』64巻10-11号
- 12月 〔講演〕文明と『北の十字軍』（公益財団法人三浦新七博士記念会経済講演会）
- 2014年 1月 〔講演記録〕経済の精神（続）『昭和経済』65巻1号
- 2月 〔講演記録〕経済の精神（完）『昭和経済』65巻2-3号
- 3月 〔座談会〕暴力の歴史から日本をとらえなおす——比較文明論的考察『日本とは何か』（萱野稔人編）NHK出版
- 5月 〔論説〕「知慮」の時代——日本再生と社会科学『フューチャー・

- プラス』（未来を創る財団ニュースレター）1号
- 11月 〔講演〕中・近世ヨーロッパの人・戦争・法——『北の十字軍』
を中心として（一橋大学学長退任記念講演会）
〔論説〕大学と国際流動性『自警』（森有礼高等教育国際流動化セ
ンター）1
- 2015年 6月 〔共著〕柳井俊二・村瀬信也編『国際法の実践』（第一部24「人の
掠奪とルソー・ポルタリス原則」）信山社
- 9月 〔研究報告〕Clause 61 of Magna Carta and Peace (“*The Past,
Present and Future of the Rule of Law: Magna Carta, the 800th
Anniversary*” organized by Renmin University of China Law
School, University of Oxford Faculty of Law and Korea Founda-
tion for Advanced Studies)
- 10月 〔講演〕とまれ、お前はあまりにも美しい——漱石・ゲーテ・実
学革命（函館大学創立50周年記念講演会）
- 2016年 2月 〔講演記録〕暴力・文明・世界——ヨーロッパ史研究の現場から
『如水会会報』1020号